



伝える

理事長 坂本 好逸

本ベルが
終わると、
さつきまで
ザワついて
いた客席が静かになった。客電
が落ち、音楽に乗って緞帳がと
ぶ、板付きの舞台にお客様の息
づかいが伝わる。

秋田県金浦町に生まれた
「白瀬轟中尉」が日本人として
初の南極探検から百周年を記
念し、県民ミュージカル「白瀬中
尉物語―南十字星のもとへ―」
（作・演出 栗城 宏・わらび座
所属）の開演だ。

出演者は、県内各地から応募
した三十余名の一般県民（加盟
団体で演劇活動をしてきた者
は少数）そのほとんどがミュー
ジカルは初舞台である。稽古場ま
で二時間以上かけて通つて来る
者も多い。さらに合唱団、バレエ
スクールの生徒。それを支えた
スタッフは劇団わらび座の皆様
だった。

あの未曾有の大震災が発生
した三月十一日（金）は稽古日
だった。

停電、節電が言われ、慢性的な
ガソリン不足、原発事故等な
ど、被災情報を知る度に「この

まま稽古を続けていて良いのだ
ろうか？」と不安がつつて来
た。

その一週間後、稽古場にやつと
集まつて来た出演者達から「命
を問いかけるミュージカルだか
らやろう」「何でも自粛するこ
とを被災者の方々は望んでいる
のだからか」そして「生きる事
の大切さを伝える、このミュー
ジカルをやろう」と声が上がった。

一月二十二日・大仙市大曲市
民会館、二月五日・秋田市文化
会館で上演。

この県民ミュージカルの舞台か
ら秋田県の偉人「白瀬轟」の偉
業を描くことで「生きている事
の大切さ」伝える事が出来た。
二会場共「札止め」だった。

県内各地から集まつて二人数
か月の稽古に汗を流した仲間
達は、日常に帰って行つたが、再
演を期待する声が聴こえる。
出演者達からも再演を望む声
がある。

平成二十六年に「第二十九回
国民文化祭」が秋田県で開催
される。我が秋田県が誇る偉人
「白瀬轟中尉」の偉業を伝え、
「生きている事の大切さ」を伝
える県民ミュージカル「白瀬中
尉物語―南十字星のもとへ―」
の再演は……。

**秋田県演劇章を
受章して**

劇団能代小劇場 宮川 孝一

平成二
十四年秋
に思いもよ
らない大き
な賞をいただいた。「秋田県演
劇章」である。所属している能
代小劇場の代表伊藤洋文さん
と今立善子さんが推薦して下
さつたとのことであった。賞状は
まだ来ないが、記念の章が送ら
れてきたからと云つて、受章伝
達式とお祝いの会を、稽古場と
している伊藤洋文さんの会社の
「一室で開いて下さつた。A4版に
ワープロで書かれた賞状には、
「あなたは演劇を愛し育くみ、
秋田県演劇文化の発展に尽く
されました」とあり、能代小劇
場で役者として努力したこと
を讃え、今後の活動に期待する
と書かれていた。私は身のひき
締まる思いにかられた。と同時に
に能代小劇場で公演した金子
洋文作、伊藤洋文演出の「鬼の
面」（郵便屋の留四郎役）や能
代ミュージカルで出演した役柄
が走馬燈のように思い出され
た。

特に「鬼の面」の留四郎は私
にとつて、愛着深い役であり、そ
して思い出多い作品である。'04



年「第2回北の演劇祭」（小坂
町康楽館で公演）や11年銀河
ホール地域演劇祭（湯田町銀河
ホール）で劇団能代小劇場の初
代代表、故佐藤長俊氏（東助
役）と演じた思い出。11年には
神奈川県相模原市で能代市を
PRしよう企画したイベント
に参加公演したこと、伊藤洋文
さんの東助役とそれぞれ懐しい
思い出となっている。高校時代
から今まで、芝居に興味を持ち
続けてこれたのも、多くの先輩
や仲間のみなさんに支えられて
のことであり、まずこのことに
幸せを感じなければならな
いと思う。

そして関係各位のみなさん
やスタッフ、キャストを代表して
今回は受章することが出来、心
から感謝したい。

しばらくしてから本物の立
派な賞状が送られてきた。それ
を金縁のピカピカの額に入れ、
机の上に飾つてみた。今、手元
にはワープロのA4版の賞状もあ
り、二枚とも輝いている。大切に
したい。

「国民文化祭」

副理事長 伊藤 洋文

平成二
十六年度
の国民文
化祭が秋
田県で開催される事になり、能
代市でも市民ミュージカルフェ
スティバルとして全国各地で活動し
ている市民レベルのミュージカル
を公演する事を決定し、現在
実行委員会を組織して事業計
画を策定しております。

開催日時予定は平成二十六
年十一月（土）、二日（日）二日
間に渡つて五団体の公演とシン
ポジウム、交流会を企画してい
ます。基本的には秋田県から四
団体（能代市、養護学校、三種
町、秋田市民おやこミュージカル
等）全国から二団体を予定して
います。なにしろ初めての事業
ですし参加団体が果たして集
まるのかどうか又、公演と公演
の間をどうしていくのか、ある
いは、予算はどの程度になつて
いくのか模索段階です。

さらには、折角の機会ですか
らミュージカルの公演を通して
秋田県や能代市をPR出来る
絶好の機会と思っております
し、小坂町の康楽館を核にして
行なわれる演劇フェスティバルも

**演劇大学
in あきた**

副理事長 富橋 信孝

湯田町
の演劇専
用劇場 銀
河ホール

で、開館（平成五年）から15年
間演劇プロデューサーを務めた
新田満さんに誘われて、日本演
出者協会の会員になつたのが平
成二十三年。それから1年も経
たず「演劇大学を秋田でやれな
いだろうか」というお誘いが、や
はり新田さんから持ちかけら
れた。この頃、秋田県国民文化

祭基本構想検討委員を務めて
いたので、国民文化祭が開催さ
れる平成二十六年に「演劇フェ
スティバル」と一緒に「演劇大学」
を秋田でやれば良いな、くら
いに思っていた。ところが新田さ
んからは「盛岡で3年間やるの
で、秋田でも3年続けてできな
い訳はない。」と、ねじ込まれて
しまった。

まずは、平成二十四年度。連
盟の「秋田県演劇セミナー」と
の同時開催を考えていたので、
さつそく日本演出者協会事務
局との日程調整と会場探しが
始まった。いくつかの候補日のう
ち、平成二十五年2月1〜3日
に決定。会場は昨年7月にオー
プンしたばかりのエリアなかい
ち内（日赤病院跡地）の秋田市
にぎわい交流館。この間、平成
二十五年年度の企画書が新企画
舎の高橋純さんから提出され、
くらの街・横手市増田町で平
成二十五年12月12〜14日に開

催される事が決定したと、日本
演出者協会事務局の齊藤由夏
さんから連絡が入つてきた。

さらに、「第29回国民文化祭・
あきた2014」での現代演劇
のフェスティバルが、小坂町と当
連盟が実行委員会を結成し
て、あの歴史的な芝居小屋・康
楽館でやる事も決定。「演劇
フェスティバル」が平成二十六年
11月1、2日に決つたとの秋田
県からの連絡を受けて、小坂町
では「演劇大学in小坂」を1週
間前の10月24〜26日にしたい
と言つてきた。しかも、廃校と
なつた旧十和田小中学校で、貸
布団を持ち込み自炊？しなが
らの合宿形式を提案。これもす
ごい事になりそうだ。

とにかく、走りながらバタバタ
と3年計画が決つてしまひ、後
は連盟の皆さんと一緒に走りぬ
くだけ。平成二十徳年は当連
盟結成45周年。すばらしい記念
の年にしよう！

編集後記

まだまだ寒さが厳しく感じる季節
ですね。雪かきのコツは、なるべくた
めないようにこまめに行うことだそ
うです。連日の大雪の中、こまめに雪
かきをした結果…筋肉痛に悩まされ
ています。春の訪れが待ち遠しいで
す。

今回の広報の発刊にあたり、ここ
2・3年前の各団体の活動記録をま
めのお手伝いをさせて頂きました。今
掲載されたのは、各団体の主催事業
のみですが、その他にも各団体がそれ
ぞれ客演や各地域の行事に数多く参
加されていきました。

劇団の枠を越えて、さまざまな団体と
交流し協力し合えるのは素敵だなあ
と思いました。

また、毎月どこかしらで公演をして
いるようなので、県南・県北・中央地区と
各団体の公演を拝見しながら、県内各
地の観光スポットを訪ねたいと思い
ました。

末尾になりましたが、お忙しい中寄
稿をお願いした皆様、ありがとうございました。

秋田演劇マップ

